98-1　生麦事件跡から神奈川宿へ　（9.5km）

熊野神社の大きな狛犬

生麦事件跡から、神奈川湊の面影を求めて神奈川宿をひたすら歩く。

【道順】

京浜急行生麦駅→生麦事件参考館・生麦事件の碑→キリンビール横浜工場→遍照院→オランダ領事館跡→良泉寺・笠のぎ稲荷神社→能満寺・神明宮→金藏院・熊野神社→（仲木戸歴史の道）→神奈川地区センター・高札場（復元）→成仏寺（アメリカ人宣教師の宿舎跡）→慶運寺（フランス領事館跡・浦島寺）→神奈川台場跡（台場跡碑・台場石積）→本陣跡・浄瀧寺(イギリス領事館跡)・宗興寺（ヘボン碑と神奈川の大井戸）→洲崎大神・権現山→普門寺・甚行寺（フランス公使館跡）→台町の茶屋→大網金刀比羅神社→三宝寺・本覚寺（アメリカ領事館跡）→望欣台の碑→神奈川台の関門跡→JR 横浜駅（or 京浜急行神奈川駅）

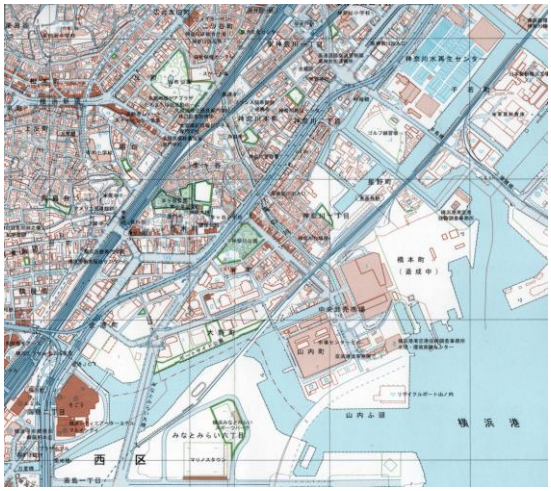
【地図豆知識】神奈川湊

神奈川湊は、武蔵国橘樹郡神奈川（現・神奈川県横浜市神奈川区）にあった湊（港）である。神奈川湊が記録に現れるのは、鎌倉に幕府が置かれた 13 世紀以降のことである。

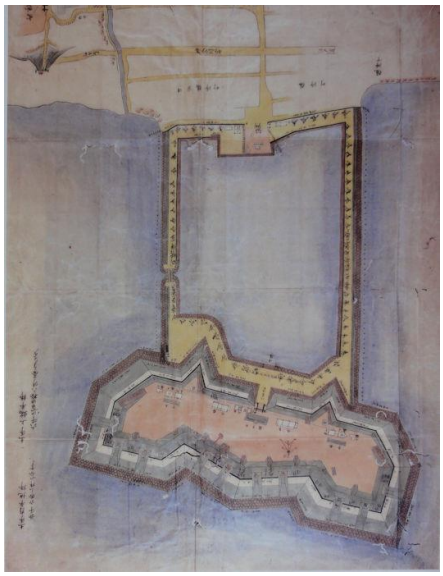
神奈川湊とその湊町は、鎌倉時代には鶴岡八幡宮が支配し、室町時代には関東管領上杉氏の領地となった。江戸時代には東海道が整備され、慶長 6 年（1601 年）に神奈川へ宿場が置かれた。神奈川宿と神奈川湊は、幕府の直接支配を受け、神奈川陣屋がこれを担った。

安政 5 年（1858 年）、神奈川湊沖・小柴（横浜八景島周辺）に碇泊していたポーハタン号上で日米修好通商条約が締結された。同条約では「神奈川」を開港すると定められていた。しかし、街道を通行する日本人と、入港する外国人との間の紛争を避けるために、神

奈川湊の対岸にある横浜村に港湾施設や居留地をつくり、開港した。これが現在の横浜港となった。そのため、外国人に対して、横浜は神奈川の一部と称した。



台場附近の旧図（m39）と新図（H17）



新図に台場附近の旧海岸線を重ねた図・「神奈川台場図」（台場公園で）

【地図豆知識】生麦事件

文久 2 年（1862 年）、薩摩藩主島津茂久（忠義）の父で藩政の最高指導者・島津久光は、幕政改革を志して江戸へ出向いたのち京都へ帰るところであった。このとき久光が率いた軍勢は 400 人あまりであった。行列が生麦村に差しかかった折り、騎馬のイギリス人と行き会った。一行 4 人はこの日、東海道で乗馬を楽しんでいた。

行列の先頭の方にいた薩摩藩士たちは、正面から行列に乗り入れてきた騎乗のイギリス人 4 人に対し、身振り手振りで下馬し道を譲るように説明したが、イギリス人たちは、「わきを通れ」と言われただけだと思いこんだ。しかし、行列はほぼ道幅いっぱいに広がって

いたので、結局 4 人はどんどん行列の中を逆行して進んだ。鉄砲隊も突っ切り、ついに久光の乗る駕籠のすぐ近くまで馬を乗り入れたところで、供回りの藩士たちの無礼を咎める声に、さすがにどうもまずいとは気づいた。しかし、あくまでも下馬する発想はなく、今度は「引き返せ」と言われたと受け取り、あたりかまわず無遠慮に動いた。その時、数人の藩士が抜刀して斬りかかった。4 人は驚いて逃げようとしたが時すでに遅く、一行のうちリチャードソンは肩から腹へ斬り下げられ、臓腑が出るほどの深手を負い桐屋という料理屋の前から 200 メートルほど先で落馬し、追いかけてきた藩士にとどめを刺された。

生麦事件記念碑（仮移設されている）

他の二人も深手を負い、女性は帽子と髪の一部が飛ばされただけの無傷であり、真っ先に横浜の居留地へ駆け戻り救援を訴えた。マーシャルとクラークは血を流しながらも馬を飛ばし、神奈川にある当時、アメリカ領事館として使われていた本覚寺へ駆け込んで助けを求め、ヘボン博士の手当を受けることになった。尊王攘夷運動の高まりの中、この事件の処理は大きな政治問題となり、そのもつれから薩英戦争（文久 3 年 7 月）が起こった。

命を落としたリチャードソンの落馬地点付近に生麦事件之碑がたてられている。

【街歩き解説】

・遍照院

京浜急行の踏切を跨いで短い参道がある特徴的なお寺

遍照院・オランダ領事館跡

・オランダ領事館跡

神奈川通東公園となっている場所に昭和 40 年（1965）まで長延寺があり、ここが横浜開港当時のオランダ領事館であった。

・良泉寺・笠のぎ（のぎ偏に皇）稲荷神社

良泉寺は、開港当時、幕府から外国人宿舎にするように命ぜられた住職は、屋根をはがし、修理中との口実でこれを断ったといわれている。

笠のぎ稲荷神社、笠をかぶった人がこの前を通ると、不思議に笠が脱げ落ちたそうで、そのため笠脱稲荷と呼ばれるようになり、その後、笠のぎ改められたといわれている。

・熊野神社

熊野神社の大きく特徴的な狛犬は、嘉永年間に造られたもの。鶴見村の石工飯島吉六の作という。

・神奈川地区センター・高札場（復原）

神奈川警察署西側付近にあった高札場を、神奈川地区センター前に復元したもの。同センターには、神奈川宿のジオラマがある。

高札場は、幕府の法度や掟などを庶民に徹底させるために設けられた施設で、宿場の施設としては重要なものであった。明治に入り情報伝達の手段が整うにつれて、やがて姿を消した。現在ある高札場は、神奈川警察署西側付近にあったが、資料をもとに復原したもの。

高札場跡・滝の川

・成仏寺（アメリカ人宣教師の宿舎跡）

横浜開港当時アメリカ人宣教師の宿舎にあてられた。「ヘボン式ローマ字」や聖書の翻訳で知られるヘボンは本堂に住んでいたといわれる。

・慶運寺（フランス領事館跡・浦島寺）、浄瀧寺

慶運寺は、横浜開港当時フランス領事館として使用された。また浦島寺とも呼ばれた観福寺にあった亀の台座を持った石塔がこの寺に残されているほか、浦島太郎が竜宮城から持ち帰ったとされる観音像が残る。浄瀧寺は イギリス領事館跡。また近くを流れる滝の川は、権現山から流れ出る水が、滝となって落ちていたので、滝の川といわれるようになったとも。この川には、『河童のくれたされこうべ』という伝説が残る。

・神奈川台場跡（台場公園・台場跡碑・石積）

「台場」は幕末期、黒船来航という歴史的非常事態に際し築かれた海防拠点（砲台）で各地に設置された。神奈川台場も幕府の命令で横浜開港の翌年、1860（万延元）年に開港場の対岸、現在の神奈川区神奈川１丁目付近に築かれた。勝海舟が設計に関与したと言われるもので、羽を広げたコウモリのような形をしている事から「蝙蝠台場（こうもりだいば）」とも呼ばれた。石垣には江戸城にも使われている耐火性、耐久性にすぐれた小松石が使われた。

1899（明治 32）年、台場は外国人居留地の廃止とともに役目を終え、次第に埋め立てられ、現在では石積みの一部を見る事ができる。

第一京浜と瀧の川が交差する辺りは、かつての本陣跡である。

台場跡の石積・神奈川台場跡

・宗興寺・神奈川の大井戸

神奈川の大井戸は、江戸時代には東海道中の名井戸に数えられ、神奈川御殿に宿泊する徳川将軍のお茶の水にも使われたと伝えられ、開港後は宗興寺に滞在し、ここを療養所としたアメリカ人宣教医シモンズや宣教師ヘボンもこの井戸の水を利用した。この水を売り歩く「水屋」もいたという。

アメリカ人宣教師で、ここに施療所を開いたヘボン博士は、「ヘボン式ローマ字」でもよく知られ、日本で最初の和英辞典を完成し、聖書の翻訳なども行った。

宗興寺ヘボン碑・神奈川台の関門跡碑

・洲崎大社、普門寺

洲崎大社は、1191 年（建久 2 年）に源頼朝が安房神社を勧進して創建した。洲崎大社裏手の権現山は、1510 年ごろの合戦場跡、近くにある普門寺はフランス公使館跡でもある。

・神奈川台の関門跡

開港後、外国人があいついで襲撃殺傷されたが、いずれも犯人逮捕につながらなかった。イギリス総領事オールコックを初めとする各国の領事たちは、幕府を激しく非難した。そこで幕府は、横浜周辺の主要地点に関門や番所を設けて警備体制を強化した。この時、神奈川宿の東西にも関門がつくられ、そのひとつが西側・神奈川台の関門である。

・大網金刀比羅神社、望欣台の碑

関門跡の東に大網金刀比羅神社があり、その参道の入り口にはかつて一里塚があった。ここからが茶屋町として有名な台町が始まった。

弥次さん・喜多さんが活躍する『東海道中膝栗毛』にも、「爰は片側に茶店軒をならべ、いずれも座敷二階造、欄干つきの廊下 桟などわたして、浪うちぎはの景色いたってよし」とある。「おやすみなさいや一せ」……茶店女の声に引かれ、二人はぶらりと立ち寄っている。鰺の塩焼をさかなに一杯ひっかけた後、気ままな旅を続けた。

その台町は、かつて袖ヶ浦と呼ばれ、遠く野毛山や本牧の岬を望める絶景地として、幕末・明治期の文人墨客にも好まれたが、埋め立てによって、いまでは坂道と「滝川」（台町 8-14）「田中家」（台町 11-1　明治期には龍馬の妻、お龍が一時中居として働いていた）といった料亭が当時の面影をしのばせる。

また、望欣台の碑のあるあたりは、当時鉄道工事などの横浜近代化に寄与した高島嘉右衛門の別邸があった場所である。高島嘉右衛門は、請負業を始め、学校・ガス会社・芝居小屋などを経営し、高島易断を創始するなど多彩な活動をした人物である。彼はこの山の上から埋め立てを指揮し、後年この地に住んだ。そのため、埋立地は高島町、この山は高

島山と呼ばれ、公園には嘉右衛門を顕彰する「望欣台の碑」と、そのすぐ西の住宅地には「高島易断の碑」がある。

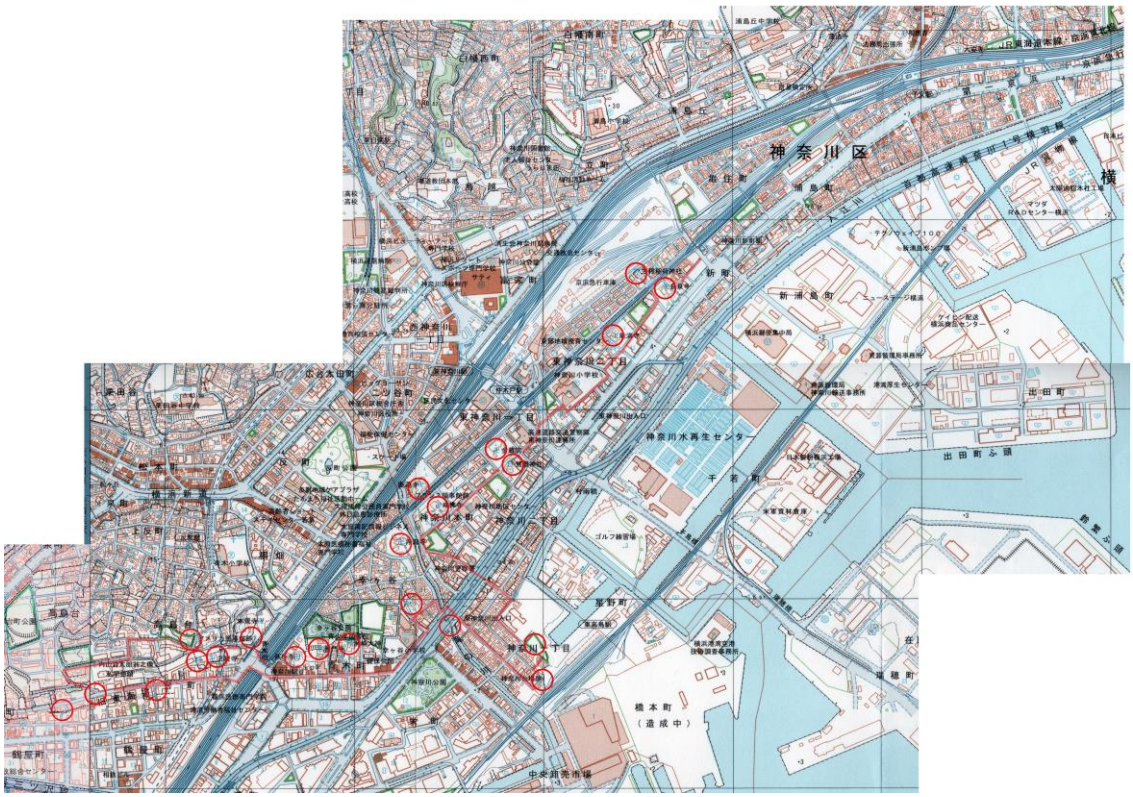
「東海道五十三次」の神奈川・台之景

台町の茶屋「田中家」と「滝川」

・本覚寺

山門脇にアメリカ領事館跡を示す石碑と樹齢 200 年を超すスダシイがある本覚寺は、生麦事件のとき負傷者が逃げこんだところでもある。安政五年（一八五八）日米修好通商条約締結に際し、アメリカ公使ハリスとの交渉にあたった全権委員・岩瀬忠震を記念する石碑が境内に立てられている。

コースマップ



+＊＊＊+　オフィス　地図豆　Yamaoka　mitsuharu　+＊＊＊+